

近年、中山間地域を中心にイノシシ、シカやサルなどの野生鳥獣による農作物への被害が年々増加しています。そのため、農業者の生産意欲が低下し、耕作放棄地が増加することにより、さらに被害を拡大させるといふ悪循環にもつながっています。

また、全国各地で山から集落へ下りてきた野生鳥獣が、人間を襲ったり、人家を荒らしたりするという事例が報告されるなど、被害は農林産業だけではなくとどまらず、地域社会に多大な影響をもたらしています。



Photo_箱わなで捕獲したシカ

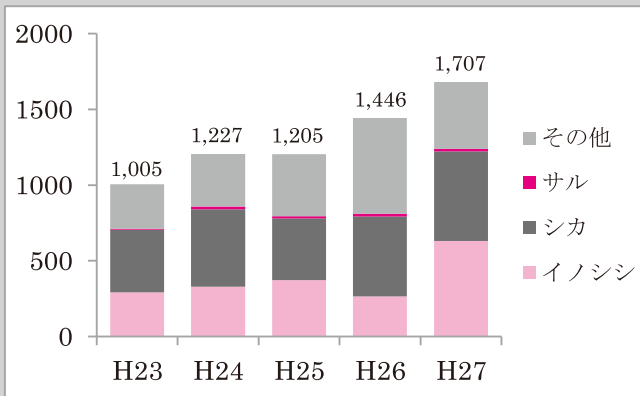
鬼北町では、特にイノシシによる被害は深刻で、稲作、野菜、ユズ、クリなどのあらゆる農作物が被害を受けています。

平成27年度のイノシシの捕獲数は前年度と比べ、約2.4倍の631頭。また、被害総額は前年度と比べ、約1.1倍の5,595千円と、ともに増加の一途をたどっている状況です。

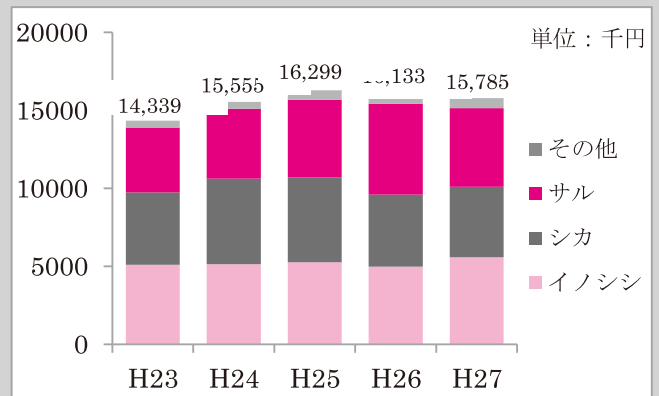
野生鳥獣から、農作物や私たちの安全な暮らしを守るため、自らができることを考え、諦めずに実践することが大切です。

鬼北町の有害鳥獣捕獲数と被害総額の推移

有害鳥獣捕獲数の推移



被害総額の推移



鳥獣害に打ち勝つ

県下では、鳥獣害対策として、3つの基本理念を掲げています。

◆集落環境整備

鳥獣害対策を進めるうえで、最も重要なのが集落内の環境を整えること。まずは、地域が一体となり動物の生態や行動、また、柵の正しい囲い方など、鳥獣害対策について勉強し、理解を深めたくうえで適切な対策をしましょう。

また、地域住民で集落内を点検し、鳥獣の浸入経路や隠れ場所になるところを確認したり、鳥獣の餌となりそうなものを除去したりし、鳥獣が近づきにくい環境をつくりましょう。

◆適切な防除

せっかく農地を囲っても、適切な方法でないと効果が上がりません。鳥獣の習性に特化した効果的な資材を使用した囲い方で、農地を囲いましょう。

◆効果的な捕獲

農地に被害を与える鳥獣（里の加害獣）を捕獲しない